

【2021年合格目標 矢島担当の主な講座の一覧 ①～⑧】

～ここでは講師紹介の一環として矢島講師が担当している主な講座を紹介しています～

*最新の法改正や判例に対応

ここに掲載した講座は2021年合格目標のもので、2021年度の司法試験や予備試験で出題される改正法や判例に対応済みです。ここに掲載した講座は、毎年、テキストを改訂しており、法改正に関わらない箇所も理解しやすいように改良しています。

*合格に必要な能力を身に付けるための4つの講座

どの講座を受講すれば良いかを迷っている方は、次の4つの講座を受講すれば合格に必要な知識や法的思考能力を修得できます。①と②が核となる講座です。③と④は短時間で実施する試験直前期の直前対策講座です。全て通学クラス・通信クラスが選べます。

- ① **矢島の速修インプット講座** (2020年5月26日～9月1日に新規収録)
- ② **矢島の論文完成講座** (2020年9月15日～12月27日に新規収録)
- ③ **矢島のスピードチェック講座** (2021年1月5日～1月27日に新規収録)
- ④ **矢島の最新過去問&ヤマ当て講座** (2021年3月頃に新規収録 但し、下記の注)
注：④は採点実感の発表時期によっては日程を繰り下げる可能性があります。

① 矢島の速修インプット講座 (司法試験・予備試験の対策)

[必修7科目合計126時間・1回の講義は3.5時間・全36回]

合格に必要な基本知識や重要判例を体系的に確実に修得して、どのような問題にも対応できるだけの正確な理解に基づく真の学力を身につけるための講座です。講義の際は、試験対策上、理解しておけば足りるところと、理解した上で記憶までしておかなければならないところを明確に指摘するので、講義を受講し終えたときに、何をどの程度まで復習すべきかが明確に把握できるように工夫をしています。これからインプット学習を始める受験生はもちろん、これまでどこかでインプット学習をした経験があるのに、結局、試験に必要な学力が身につけていなかったという受験生でも、この講座の講義を聴けば確実に前に進むことができます。

② 矢島の論文完成講座 (司法試験・予備試験の対策)

[必修7科目合計120時間・1回の講義は4時間・全30回]

インプットした基本知識を、論文試験の事例処理を通じて答案の形にするのに必要な法的思考能力を修得するための講座です。矢島作成の解答例を使用します。講義では、試験考査委員に高い評価を得られる答案の作成方法を徹底的に指導します。

③ 【直前対策講座】矢島のスピードチェック講座（司法試験・予備試験の対策）

〔必修7科目合計46時間・1回の講義の時間は科目ごとに異なる〕

合格に必要な重要論点や重要判例を試験直前期に短時間で効率よく復習するための直前対策講座です。試験直前期になってインプットが間に合わないのではないかと心配している受験生でも、自信をもって試験に臨めるようになります。また、矢島の速修インプット講座の受講経験がある方にとっても、合格に必須の最重要事項について、**試験直前期の最終チェック**をするのに最適の講座です。

④ 【直前対策講座】矢島の最新過去問&ヤマ当て講座

〔必修7科目×3.5時間＝合計24.5時間・全7回〕

司法試験の最新の論文過去問の分析と直近の論文試験のヤマ当てをするための講座です。最新の論文過去問は、**最近の試験考査委員**が受験生に対して**どのような答案を求めているかを理解**するのに役立つ最良の道具となります。最新の過去問と矢島作成の解答例を用いて、**本番の試験**で求められている**法的思考能力の「質」**をしっかりと理解して、本試験で高評価を得られる**答案**がどのようなものかをイメージできるように、しっかりと講義していきます。

各科目の講義の後半では、**今回実施予定の司法試験の論文試験で出題されそうな論点や重要判例等のヤマ当て講義**を実施します。

本講座は司法試験を題材としていますが、**試験考査委員が求める答案がどのようなものかを理解して、司法試験で出題される論点の題材にして法的思考能力を磨く**ことは、**予備試験の受験にも役立つ**ため、予備試験の受験生にもお勧めの講座です。

⑤ 短答試験対策のための講座「矢島の短答対策シリーズ」の一覧

〔以下の全科目を新規収録して2020年11月上旬に配信開始〕〔通信クラスのみ〕

家族法〔6時間〕（司法試験・予備試験の対策）

商法総則・商行為・手形法〔4時間〕（予備試験の対策・**論文に必要な知識も修得**）

会社法〔4時間〕（予備試験の対策）

民事訴訟法〔4時間〕（予備試験の対策）

刑事訴訟法〔4時間〕（予備試験の対策）

行政法〔4時間〕（予備試験の対策）

憲法統治〔6時間〕（司法試験・予備試験の対策）

注：「憲法統治」だけは、LECが出版・販売している「完全整理択一六法・憲法」を用います。それ以外の講座は、矢島作成のオリジナルテキストを用います。

⑥ 【直前対策講座】矢島の法律実務基礎科目〔民事・刑事〕〔18時間〕

(予備試験の対策) (毎年新規収録して6月上旬に配信開始) [通信クラスのみ]

[民事 1コマ3時間×3回=9時間, 刑事 1コマ3時間×3回=9時間]

本講座は法律実務基礎科目の近年の試験傾向を十分に考慮した上で、合格に必要な基本重要知識のインプットや、論文答案の書き方を修得することを目的とした直前対策用の講座です。本講座を利用することで、短答式試験が終了した後も、短時間で法律実務基礎科目の試験対策をすることができます。

講義での主な取扱い事項は次のとおりです。

- (1) 民事・刑事ともに合格に必要な能力を修得するのに最適な3年から4年分程度の論文過去問
- (2) 民事のインプット講義として、民事事実認定の基本的なルール、要件事実、民事保全法、民事執行法
- (3) 刑事のインプット講義として、刑事事実認定の基本的なルール、刑事実務に関する試験で問われやすい基本知識(勾留、接見禁止、保釈、公判前整理手続、証拠調べ手続の実務基礎、その他)
- (4) 民事・刑事ともに論文試験、口述試験で出題頻度が高い弁護士倫理

⑦ 司法試験・予備試験の選択科目の対策 ～労働法のインプット&論文対策

(1) 矢島の労働法 [選択科目総整理講座] [24時間]

(毎年新規収録して6月上旬に配信開始) [通信クラスのみ]

本講座は、まず、矢島の体系整理テキスト労働法(毎年改訂)を使用して、合格に必要な基本知識や重要判例をインプットするための講義を1コマ3時間で5コマ実施し、次に、司法試験の論文過去問と矢島作成の解答例を題材に労働法の合格答案の書き方を修得するための講座を1コマ3時間で3コマ実施します。

この講座は、イメージでいうと、矢島の速修インプット講座と矢島の論文完成講座がセットになったようなものです。

(2) 【直前対策講座】矢島の直前対策スピードチェック労働法 [6時間程度]

～今期の試験で出題されそうな重要論点や判例の最終チェック [ヤマ当て]

(パンフレットに未掲載・WEBに掲載予定) (4月上旬に水道橋で通学・通信) 令和3年度の試験で出題されそうな重要論点や重要判例を短時間でマスターするためのインプット用の直前対策講座です。過去の出題傾向を踏まえて、出題されそうな重要論点を短時間でチェックできます。[なお、講座名称の変更の可能性があります]

⑧ **矢島ゼミ** [2021年2月開講のゼミは**以下の日程変更**あり]

答案添削，個別面談，合格に直結する実践的な知識の修得に必要な講義，合格に必要な重要事項の理解度や記憶の定着度の口頭チェックなど，合格に必要な指導を矢島講師が直接行います。ゼミの際は，矢島講師も受講生と机を並べて一緒に答案を手書き作成してゼミ生の士気を高めていきます。試験直前期まで気合を入れ続けてもらいたいという受験生にお勧めの講座です。2021年度開講のゼミは，2月6日（土）から5月1日（土）まで毎週土曜日，2月7日（日）＋4月28日（水）＋5月3日（月）＋5月5日（水）の合計17回で，水道橋本校で実施する予定です。〔注：令和3年度の試験日程が発表されたことに伴い，5月8日実施予定のゼミを繰り上げて実施する日程に変更しています〕。

***毎回の矢島ゼミの標準的なメニュー(1)～(5)**

(1) 個別面談

過去問答案練の答案を主な資料として矢島講師が口頭でアドバイスをします。希望があれば，ゼミ生の個別的な学習スケジュールの構築など幅広く相談に乗ります。

(2) 過去問答案練（司法試験の過去問の一部又は改題を用いた答案練）

矢島講師もゼミ生と一緒に教室内で答案を手書きしてその答案のコピーを配布した後に質疑応答の時間を設けます。質疑応答を通じて，試験考査委員に評価される答案の書き方を修得していきます。過去問答案練でゼミ生が書いた答案はゼミ終了後に回収して矢島講師が添削した上で，次回ゼミの個別面談で返却します。

(3) 答案作成特訓

過去問答案練で扱っていない問題のうち，受験対策上，検討しておくとうよさそうな問題を題材に答案練をします。題材は，矢島講師作成のオリジナル問題を中心に，予備試験の問題，過去問答案練で扱わなかった司法試験の過去問などを用いることがあります。答案作成特訓においても過去問答案練と同様，矢島講師がゼミ生と一緒に答案を手書きして答案のコピーを配布した後に質疑応答の時間を設けます。

(4) 論証その他試験に必要な知識の修得特訓

記憶をすることに特化した矢島講師作成のオリジナル論証集を題材に，毎回，記憶すべき事項を計画的に記憶していってもらいます。オリジナル論証集は，必修7科目のものを1週間で記憶できるだけの分量のものに分断したものを毎回のゼミで少しずつ配布していきます。配布した論証集については，次回のゼミまで記憶してくることを課題として，ゼミの冒頭で，口頭にて記憶の確認テストを実施します。

(5) 短答確認テスト

毎回ゼミの最後に事前に範囲指定した短答の過去問テストを実施し，ゼミ生の解答内容を矢島講師が直接確認した上で，全問正解できたゼミ生から順次帰宅することができます。ゼミ終了後に何か質問したいことがある場合はそのまま教室で待機することができます。